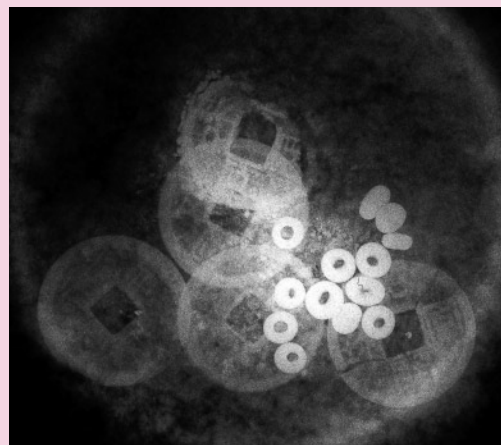


興福寺南大門の鎮壇具

2009年7月～12月に実施した興福寺南大門の発掘調査では、基壇中心部から須恵器の広口壺が出土しました。出土位置などから南大門の鎮壇具容器とみられたので、写真撮影・実測作業をおこなったうえで取り上げました。その取り上げは、奇しくも再建工事が進む興福寺中金堂地鎮・鎮壇法要の前日（2009年11月6日）のことでした。

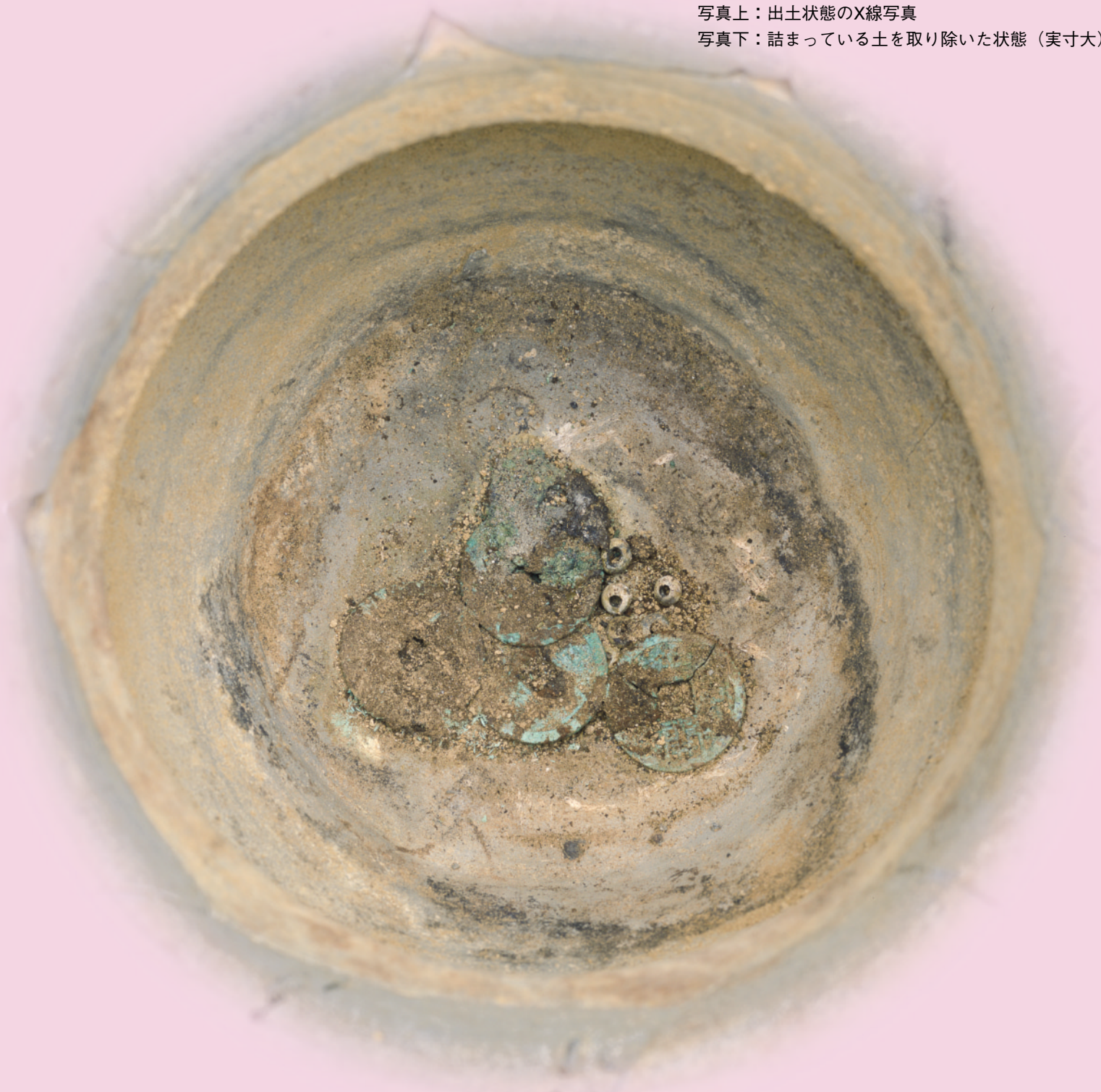
X線透過撮影と高エネルギーX線CT撮影とにより、壺の内部に銭貨5枚、鉛ガラス製とみられる小玉13点が納入されていることが判明しました。これらは壺の底部にあり、ガラス小玉の上に銭貨が重なっています。銭貨はその銭面から和同開珎と判断でき、奈良時代の鎮壇具であることがわかりました。現在は発掘調査を終え、鎮壇具の詳細な検討を進めています。内容物の解明にご期待ください。

（都城発掘調査部 森川 実）



写真上：出土状態のX線写真

写真下：詰まっている土を取り除いた状態（実寸大）





鎮壇具出土狀況